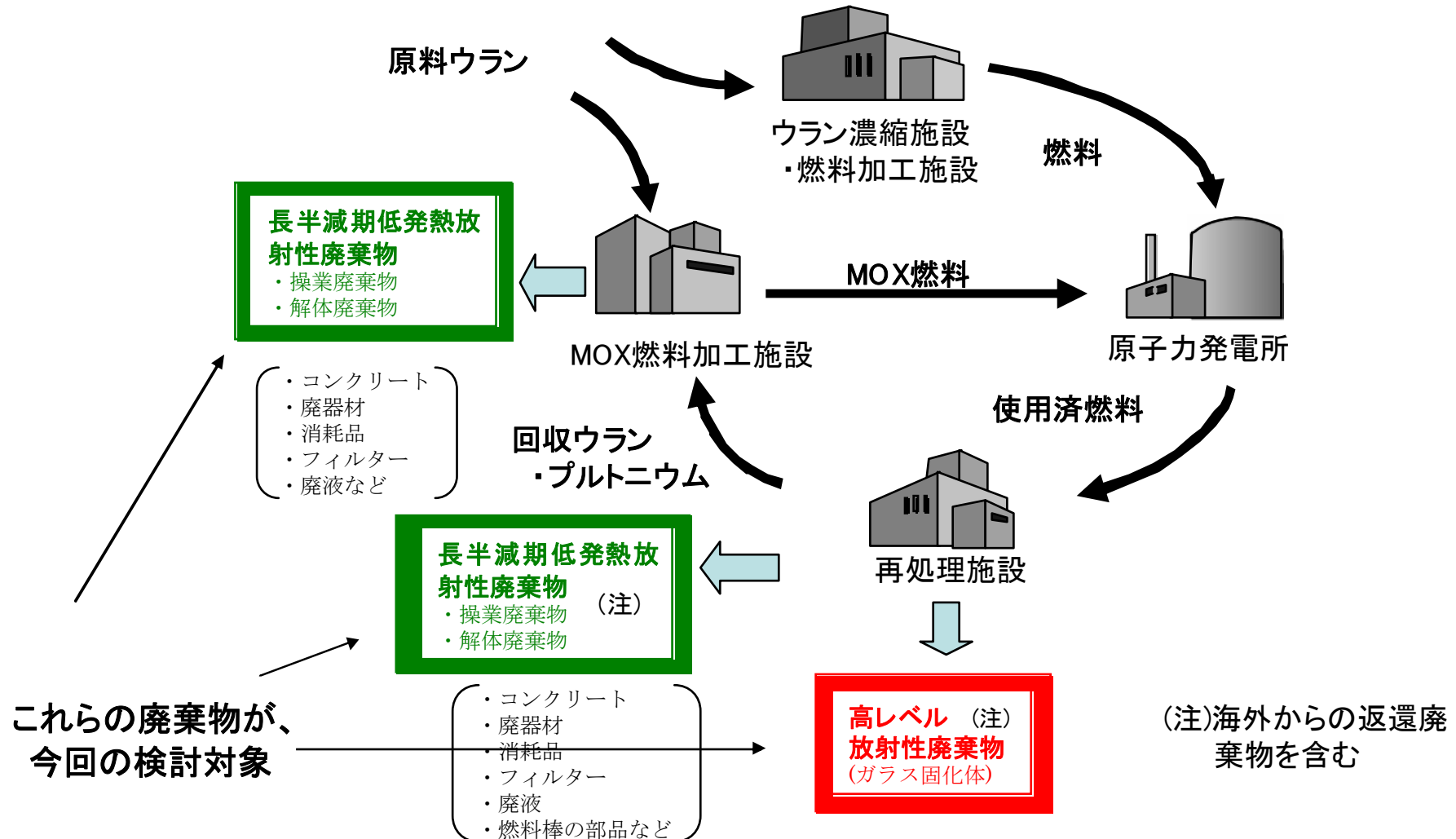


# 高レベル放射性廃棄物等の概要

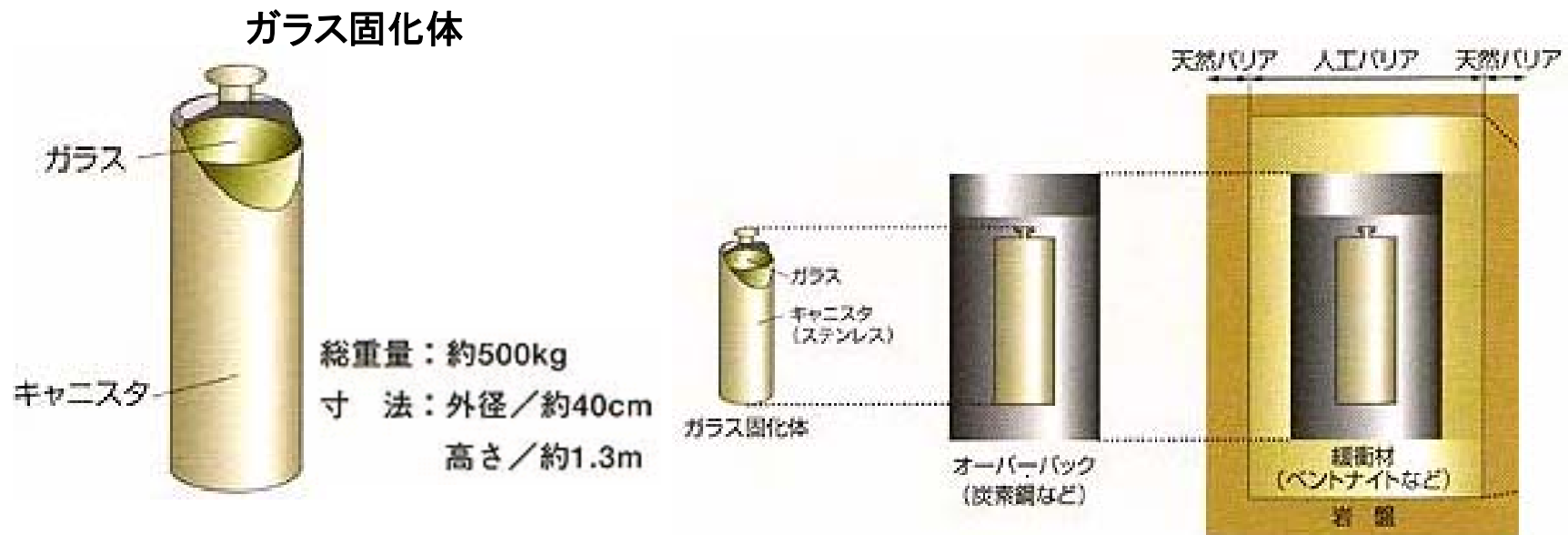
高レベル放射性廃棄物や長半減期低発熱放射性廃棄物は、再処理施設及びウラン-プルトニウム混合酸化物(MOX)燃料加工施設の操業や廃止措置に伴い発生。



## ガラス固化体の概要

### ガラス固化体とその処分

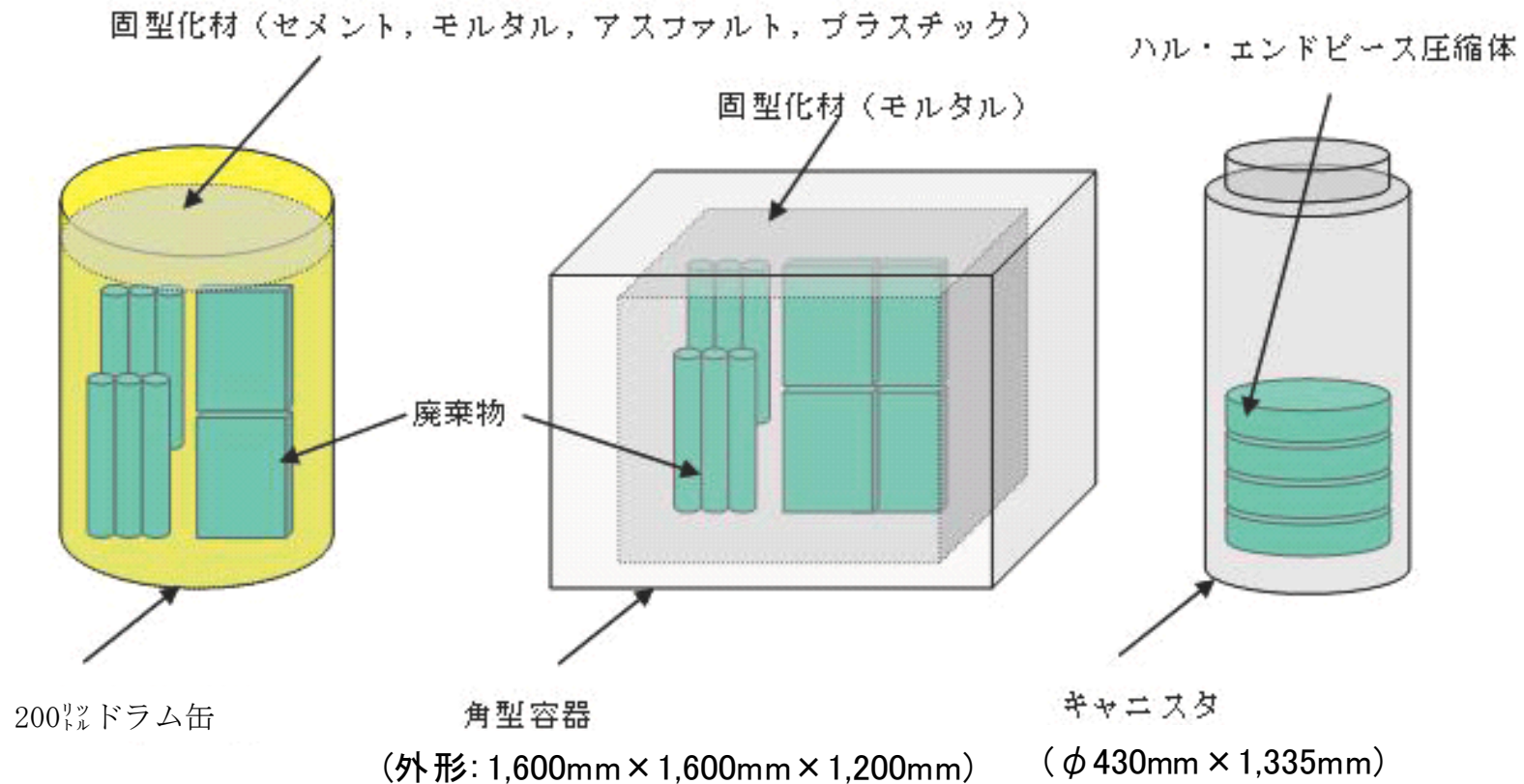
- ・ ガラス固化体とは、液体状の高レベル放射性廃棄物をガラス原料とともに高温で溶かし合わせたものを、ステンレス製の容器（キャニスタ）内に入れて冷やし固めたもの。
- ・ このガラス固化体は、30年～50年程度冷却のための貯蔵を行い、その後、更に鉄製の容器に入れて、地下300mより深い地層中に緩衝材で覆い処分する。



# 長半減期低発熱放射性廃棄物の概要

## 長半減期低発熱放射性廃棄物とその処分

- ・ 長半減期低発熱放射性廃棄物とは、再処理施設等の操業・解体に伴って発生する放射性廃棄物で、ウランより原子番号が大きい放射性核種を含むもの。
- ・ 長半減期低発熱放射性廃棄物は、放射能濃度に応じて、次ページに示す処分方法のうちから、適切な処分方法を選択して処分する。



# 放射性廃棄物の処分方法

4

放射性廃棄物の処分方法は、深さや放射性物質の漏出を抑制するためのバリアの違いにより、4つに分類される。

## ・浅地中処分

### ①浅地中トレンチ処分

人工構築物を設けない浅地中埋設処分

### ②浅地中ピット処分

コンクリートピットを設けた浅地中への処分

## ・余裕深度処分

一般的な地下利用に対して十分余裕を持った深度（地下50～100m）への処分

## ・地層処分

地下300mより深い地層中に処分

